



こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.112

この作品は、人権のまちづくり国見部会の人権作文に応募された国東市立国見中学校2年(現3年生)鈴木 弥さんの作品です。

ネットいじめ

国見中学校 2年 鈴木 弥

最近、LINEなどネットがすごく発達しています。その一方でさまざまな問題が生じています。僕が一番心に残っているのはLINEによるいじめ問題です。

これは、LINEで同級生が悪口を言いました。「うざい」や「嫌い」など人が言われて傷つく言葉を言ったのです。

その結果、この悪口を言われた中学3年の男子は首をつり、自殺という行動をとってしまったのです。この事件はLINEでおこったので、親は気づけなかったのです。だから学校に伝えることができなかったのです。この事件はネットの中でいじめがおきたせいでもありません、尊い命がうばわれてしまったのです。

この事件を僕はテレビで見ました。僕はまずいじめは本当にこわいと思いました。なぜならいじめというのは、人の命をうばう、凶器だからです。ニュースでいじめのことで自殺した人が何人もいるからやっぱりいじめはこわいと思いました。もう一つ感じたことがあります。それは、LINE Eはとっても、便利だけど使い方をまちが



平成26年度国見町人権フェスティバルで発表する国見中学校2年生 鈴木 弥さん

えると大変なことになると思いました。LINEで書いた言葉が届いた人は、傷ついたり、悲しんだりすることがあるからこわいと思いました。さらに親にLINEでの会話は見られないので悪口を一人で耐えることになるのです。その悪口に耐えられなくなり自殺したときに、初めて親がいじめられていたことに気づきます。LINE Eは改めてこわいと思いました。

僕は今、LINEを同級生として使っています。この事件があったからLINEをはずしました。僕はこの事件で自分ではふつうの言葉でも、相手からすればいやに思ったりする言葉もあると思いました。その例は命令の言葉です。「しろ。」や「やれ。」などです。この言葉は相手がいやがるかもしれない。だから僕はたとえ同級生でも

市長室からごんごんごん

No.52

市長日記

53名の国東高校生との意見交換

国東市長 三河 明史

担当の先生に案内されて、国東高校4階の大会議室に入ってゆくと既に着席していた53名の高校生の皆さんが拍手と笑顔で迎えてくれました。生徒の皆さんが手作りするケーキが置かれており、歓迎の気持ちを込めて作ったものだと言っていました。とても嬉しく、感激でした。

今年の3月、国東高校双国校の卒業式に出席した時のことです。その卒業生の進路を見て驚きました。卒業生21名のうち国東市内に残る人は、たった1人。大変残念に思いました。そしてその気持ちを市報4月号の「市長室からごんごんごん」に書いたのです。

それに対して、市内の女性の方から手紙が届きました。その内容は、「市長が残念に思うのはよく分かる。でも、都会に憧れる生徒もいるだろうし、当の生徒たちや保護者の話を聞いてみても良いのではないか」というものでした。

「それもそうだ、まず話を聞いてみよう」と国東高校に申し入れたのです。

校長先生は、すぐに賛成してくださり、希望者を募り1年生から3年生まで、男女合わせて53名の生徒が参加してくれました。

「市長は、どうして市長になったのですか? きっかけを教えてください」

「卒業後、国東に帰りたいのですが、仕事はあるのでしょうか?」

「市全体で取り組むイベントが少ないように思う」

「学力の向上にどのように取り組んでいくのですか?」等々の質問がありました。

また、「市長は生まれ変わっても国東に生まれたいですか?」という質問もありました。当然、「もちろん国東に生まれたいです。このように暮らしたい所はありません」と答えました。もちろんこれは本音です。

また、私から「国東には何も無い。退屈な所だ、と持っている人は、正直に手を挙げてみてください」と問いかけましたが、誰ひとり手を挙げませんでした。

これは本当に嬉しかったですね。そうです。彼(彼女)らが国東に残れるように、また都会に一旦出て行ってもまた帰れるように、仕事場や生活環境を作るのが私の役目であり、責任なのだと思っていました。

最後に3年生の女子生徒が「アンテナショップなど市が取り組んでいる話を聞いて有意義でした」と挨拶してくれました。私にとっても有意義な楽しい意見交換会でした。これからも続けてみたいと思います。



教育の里だより

夏休み「学力向上ステップアップ講座」実施

今年の夏も、4・5・6年生の子どもを対象に、市内全ての小学校で「学力向上ステップアップ講座」を実施しました。これは、子ども一人ひとりに応じた補充学習を行うため、夏休休業中の5日間、国語・算数を中心として、教員や学習サポーター(教員OBや地域の方々)が協力して指導するものです。具体的には、個々の課題に応じた教材プリントに取り組ませるなど個別指導を行いました。

安岐中央小学校では、安岐中学校の生徒に学習サポーターとして



「しててください。」や「やってみてください。」の方が相手も気分が悪くならないと思います。だから僕は、LINEで何かをお願いするときこの言葉を使います。悪口も、言いません。

僕はこのLINEで、トゲのある言葉を使わないことを心がけています。その結果、友達とトラブルもなくケンカもなく楽しくLINEができています。

LINEにかぎらずいじめはまだいっぱいおきています。だから自殺した人もたくさんいます。僕はいじめがおきたこの事件があつてから改めていじめはあつてはならないものだと思います。だから、今までの以上に言葉を言う前にこの言葉は相手が傷つくからダメなど判断しています。そうすれば人がいやがることもへると思います。

LINEでも言葉を送る前に確認すればいじめもなくなると思うし、このような事件もふせげられると思います。この日本からいじめがなくなればいいなと思っています。

第8回国東市隣保館まつり

「まごころの川柳」応募作品

☆傷ついて
聞いてもらえる友がいる
国東町 栗林 初美

☆友だちと
交わす目と目の暖かさ
安岐町 河野 カズ子



参加してもらった新しい取り組みも行いました。中学生に教えてもらった子どもたちは、「気軽に質問しやすかった」

「分かりやすく説明してくれて良かった」と、好評でした。

ステップアップ講座終了後の子どもへのアンケートには、「参加してよかった」「分からないところが分かるようになり、楽しかった」「1学期の勉強の復習ができて良かった」などの感想が多く寄せられました。教員からは、「日頃の授業では時間をかけて扱えないところにもじっくりと取り組むことができた」等の感想が聞かれました。学習サポーターとしてご協力くださった地域のみなさんに、厚くお礼を申し上げます。

【問合先】学校教育課
0978-72-0066